

1 基本情報

施策名	3 - 2 地域拠点でつながる健康なまちづくり				戦略名	拠点創造プロジェクト			
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	市民活動支援課					
	部長名	岡田 光一	関係課	危機管理課	高齢者福祉課	健康課	生涯学習課		

2 取組目標(Plan)

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校区を基本的な単位とした地域のまちづくりを進め、地域の特性に応じた魅力ある地域づくりと地域住民それぞれが自らの意欲や能力を発揮し、地域で活躍できる環境づくりを進めます。 ●地域住民の連携と協力による見守りや災害時などに相互に助け合うしくみづくり、各世代が主体的に健康づくりを実践する環境づくりなど、市民だれもが心身ともに健康で安心して暮らせる地域づくりを進めます。
求める成果	地域住民主体で地域を守り、支え合い、健康に暮らせる環境が整う。 →住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちになる。

3 令和3年(2021年)度取組状況(Do①)

取組1 小学校区を基本的な単位としたまちづくり協議会の設立の推進とまちづくりの人材育成

取組方針	各小学校区で福祉・子育て・防犯・防災などの様々な分野について、地域の課題やその解決方法を協議し、実践するまちづくり協議会の設立を進めます。また、地域づくりを活性化するため、行政・地域住民・市民団体をコーディネートする人材などを発掘・育成するとともに、地域で活躍できる学びの場や環境づくりを進めます。					
求める取組成果	まちづくりに対する意識が高まり、地域住民主体の地域活動が活性化する。					
取組内容	<p>小学校区単位のまちづくりを進めるため、第二小学校区、第三小学校区、大山口小学校区で設立した「小学校区まちづくり協議会設立準備会」において、地域の課題等のアンケート調査や市民が主体となって地域の魅力や課題等を洗い出し、目指す地域の将来像や将来像を実現するための具体的な事業など、独自のまちづくり計画を策定したほか、規約・組織・運営等を決定し、3つの「まちづくり協議会」が設立された。</p> <p>また、地域活動の活性化、まちづくりに係る人材を育成するため、地域におけるコーディネートテーマとした職員研修や市民講座を開催したほか、市民大生校（いきいきシニア学部、ささえあい発見学部）による参加交流型の講座を行い、自主的な学習の実践と地域の愛着、生きがいのある地域生活の実践を支援するとともに、地域づくりに対する意識の醸成を図った。</p>					
構成事業		事業名	評価	事業No	事業名	評価
	1	小学校区まちづくり協議会設立・運営支援事業	現状のまま継続	2	市民参加・協働の人づくり事業	改善して継続
	3	白井市民大生校事業	改善して継続			

取組2 地域における助け合いや支え合いの促進

取組方針	各地域において、地域住民それぞれが持つ能力を活かし、災害時における共助による地域防災力を強化するとともに、日常生活における見守り・家事支援などの身近な生活サービスが提供されるしくみをつくりまします。						
求める取組成果	地域に様々な活動の場が増え、地域コミュニティが活性化する。						
取組内容	<p>高齢者が住み慣れた地域で安心して生活し続けることができるよう、生活支援コーディネーターを中心に地域課題の把握、社会資源の創出に向けた取り組みの実施及び冊子等による社会資源の見える化を行った。また、生活上の課題を解決するための社会資源（ボランティア、サロン、支え合いの仕組みなど）を創出する会議（協議体）については、日常生活圏域単位ではなく、小学校区単位や自治会単位への働きかけによる少人数での開催とし、継続して検討を行った。</p> <p>また、地域における防災力を強化するため、避難所における運営マニュアルを整備し、自主防災組織等に周知したほか、ハザードマップ（地震・洪水）の全戸配布や自主防災組織（設立時）に対する防災資機材の交付、地域の防災訓練への支援など防災意識の醸成を図った。さらに、消防団が安全に消火活動等を行えるよう資機材等を整備したほか、団員の処遇改善のため、報酬等の見直しを行った。</p>						
構成事業		事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	4	生活支援サービス体制整備事業	現状のまま継続	5	地域防災力向上事業	改善して継続	
	6	消防団体制強化事業	現状のまま継続				

取組3 ライフステージに応じた健康づくりの推進

取組方針	地域住民や市民団体などと協働し、各世代がライフステージに応じて健康づくりを実践できる機会を充実します。						
求める取組成果	地域に様々な活動の場が増え、地域コミュニティが活性化する。						
取組内容	<p>市民だれもが「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめるように、地域スポーツの拠点である「総合型地域スポーツクラブ」を地域住民による自主的な運営を行うとともに、スポーツクラブの活動場所の確保やスポーツ指導者の育成など、「総合型地域スポーツクラブ」の活動を支援した。</p> <p>市民が集う場での白井なし坊体操（白井梨トレ体操第2）を活用した運動習慣の大切さの啓発については、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントなどの中止により、啓発活動が困難であったため、梨業組合や商工会などへの普及の協力依頼や市の広報紙、ホームページ、公園看板へのQRコードの掲載やCD・DVDの配布などの方法で周知した。</p> <p>住民主体で介護予防活動を行うグループの立ち上げ及び活動継続支援については、コロナ禍の影響で活動を休止するグループが多くあったため、リーフレット送付によるフレイル予防の啓発や感染予防を徹底した上での活動支援を行った。</p>						
構成事業		事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	7	総合型地域スポーツクラブ支援事業	現状のまま継続	8	地域健康づくり事業	改善して継続	
	9	介護予防自主グループ支援事業	改善して継続				

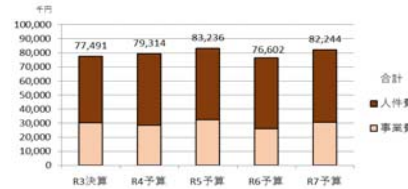
4 施策展開の状況(Do②)

改善した取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学校において、しろい人財バンク等を活用して地域市民や専門知識を有する講師による講座を開催した。 ・消防団体制強化事業において、団員の処遇改善のため、報酬等の見直しを行った。 ・生活支援サービス体制整備事業では、コロナ禍において日常生活圏単位で地域住民を集めての協議体開催が困難であったため、小学校区単位や自治会単位など、地域を限定した協議体を開催した。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、白井なし坊体操を活用した運動習慣の大切さの啓発は、梨業組合や商工会などの協力を得て、リーフレットを配布する方法で周知した。
他分野他施策との連携	・市民大学校において、市民活動支援課や高齢者福祉課、環境課と連携し、職員による介護予防や環境学習に係る講座を開催した。
市民等との情報共有、参加・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの「まちづくり協議会」を設立する過程では、準備会委員の方々（市民）と一つ一つのプロセスの積み重ねを大切に、情報の共有、合意形成を十分に図りながら、まちづくり協議会の設立に至っている。 ・生活支援サービス体制整備事業では、生活支援コーディネーターと連携しながら地域課題や社会資源の創出に向けた取組を行っている。

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
事業費	30,287	28,600	32,522	25,888	30,831
正職員人件費	47,204	50,714	50,714	50,714	51,413
合計	77,491	79,314	83,236	76,602	82,244
プロジェクト内割合	10.6%	9.6%	9.4%	11.9%	13.2%



6 1次評価(Check①&Action①)

(目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の83頁を参照ください)

	指標名	単位	基準値/基準年度		目標値	実績値					
					R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
定量的評価	小学校区まちづくり計画事業の実施率	%	-	-	80.0	70.0					
	まちサボ登録団体数	団体	87	R1 (2019)	92	98					
	自治会加入率	%	63.5	R1 (2019)	67.6	61.1					
	地域活動への参加率	%	31.0	R1 (2019)	35.0	42.7					
成果指標	地域で協力して地域課題を解決していると思う市民の割合	%	50.0	R1 (2019)	45.1	50.4					
	健康寿命の延伸(男)	歳	80.2	H28 (2016)	80.9	81.03					
	健康寿命の延伸(女)	歳	82.6	H28 (2016)	84.0	83.84					
定性的評価	<p>白井第三小学校区、大山口小学校区及び白井第二小学校区で「小学校区まちづくり協議会」が設立され、福祉・子育て・防犯・防災、環境など多様な地域課題に対応した多様な主体の連携による地域のまちづくりがスタートしたほか、地域において、自主的に介護予防活動を行う自主グループや地域スポーツの拠点である「総合型地域スポーツクラブ」を地域で自主運営するなど、地域において住民主体の多様な活動や拠点が創出されている。また、市民大学校では、新たな地域活動の担い手が生まれているほか、消防団や自主防災組織の活動に必要な機材等を整備し、地域における防災力の向上に努めるなど、住民主体の多様な活動、地域活動の担い手づくり、市民の連携による地域づくり、まちづくりが推進されている。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルスの影響により、創意工夫しながら活動しているが、イベントの中止や度重なる会議の延期、地域へ出向いて直接市民と対話やふれあうことが困難な状況にあり、計画していた取組が進んでいない事業もあることから、本評価とした。</p>					<p>進捗状況</p> <p><input type="checkbox"/> 順調</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね順調</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> やや遅れている</p> <p><input type="checkbox"/> 遅れている</p>					
遅れている取組の原因	内部要因		外部要因								
	地域における課題は、福祉・子育て・防犯・防災、環境など多様な地域課題を抱えており、地域課題を解決するためには、これまで以上に庁内の横断的な連携、調整が必要である。		新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、イベントの中止や度重なる会議の延期、地域へ出向いて直接市民と対話やふれあうことが困難な状況にある。								
施策を取り巻く環境の変化	<p>市の人口は、僅かながら減少し始めており、今後においても老年人口が増加し、年少人口や生産年齢人口は減少し続けるなど少子化・高齢化の進展も見込まれている。また、地域コミュニティの希薄化や地域の人材、担い手不足により、福祉・子育て・防犯・防災、環境など多様な地域課題に対応することがより困難となることが懸念される。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、在宅時間の増加に伴う孤立や運動不足が懸念される一方で、健康意識の向上や地域活動に参加できる人や時間が増えることで、新たな地域コミュニティの形成や地域による助け合い・支え合いなどの地域活動が広がっていくことが期待される。</p>										

課題	喫緊の課題	中長期的な課題
	少子化・高齢化の進展やコミュニティ意識の希薄化などにより、地域の人材、担い手不足が一層進むことが予想される。また、コロナ禍における新たな生活様式の中で地域のふれあい、対話、交流などの地域コミュニティの場をどのように創出していくかが重要な課題である。	多様化する地域課題に対応するためには、市民が地域の課題を自分事として捉え、地域の方々が協力し合いながら解決するなど、住み良い地域づくりを進めるといった自治意識を高めることが重要な課題である。
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性	中長期的な方向性
	白井第三小学校区、大山口小学校区及び白井第二小学校区で設立された「まちづくり協議会」の活動を継続的に支援するとともに、設立された「まちづくり協議会」の活動実績等を紹介しながら、新たな小学校区において「まちづくり協議会」の設立に向けた説明、支援を行い、新たな小学校区において「まちづくり協議会準備会」の設立を目指していく。	それぞれの小学校区において「まちづくり協議会」の設立に向けた機運を醸成し、小学校区単位のまちづくりの活動を輪を広げていく。また、介護、健康、子育て・防犯・防災、環境など多様な地域課題に対して、多様な主体の連携によって「まちづくり協議会」が課題に対応するなど、「まちづくり協議会」を主体とした地域づくり、まちづくりができるような安定した組織、体制強化、意識の醸成を図る。
進め方	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input checked="" type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大	
	地域の多様な主体が連携、協働し、地域づくり、まちづくりを推進していく仕組みづくりと意識の醸成を図り、一つ一つのプロセスの積み重ねを大切にしながら、市民一人ひとりの自治意識の醸成を図っていくことが重要である。	

7 2次評価 (Check②&Action②) 白井市行政評価委員会による評価

・設立された3つの小学校区まちづくり協議会の取組が進められるよう支援するとともに、これまでに培った設立までのノウハウを次の協議会の設立に活かす必要がある。

・コロナ禍だからこそ進めるべき取組も多いと考えられることから、対象に応じて効果的な手法・手段を選択して取組を進める必要がある。

・各取組において、各地域での核となる市民や団体が同一であることも多いことから、庁内においてもさらなる情報共有を図りながら取組を進める必要がある。

8 3次評価 (Check③&Action③) 総合計画審議会による評価

「C評価（やや劣っている（期待をやや下回る、評価が過大過小又は記載内容に不足がある））」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。

①自治会や小学校区まちづくり協議会など、それぞれの単位においてできることやすべきことを整理した上で、地域で問われている課題について、地域住民の一人ひとりが自分事として捉え、地域で議論が進むよう、工夫して情報を発信すること。

②行政においても、小学校区まちづくり協議会をはじめ、地域のまちづくりを進める上での課題を職員や部門間で共有し、解決に向けて連携を強化すること。

③小学校区まちづくり協議会については、地域の課題の解決に向けた受け皿となるとともに、柔軟な発想によりチャレンジする場にもなるよう進めること。

④コロナ禍だからこそ、人とのかかわりが重要となっていることから、地域の関わりの中で、健康の維持や認知症の予防につながる取組を進めること。

9 3次評価の改善意見等への対応

- ①
- 【令和5年度までに取り組む事項】
令和4年1月と2月に3つの小学校区まちづくり協議会が設立され、そのうち2つの協議会においては、それぞれ協議会の広報を発刊し、PRをはじめたところである。残る1つの協議会についても、作成等のサポートを行う。
また、地域住民の一人ひとりが地域課題について自分事として捉え、議論が進むよう、まちづくり協議会と連携しながら広報しろいや市ホームページ等を活用し、周知啓発を行うとともに、情報の発信方法や周知方法についても、他市の事例や各協議会の工夫した点など情報収集に努める。
- 【中長期的に取り組む事項】
未設立の小学校区も含め、9つの小学校区支部会等で自治会、小学校区支部、小学校区まちづくり協議会、地区社会福祉協議会等のそれぞれの役割やそれぞれの単位でできること等の整理を行い、できるところから進めていき、その実例なども踏まえた情報等の発信を行う。
- ②
- 【令和5年度までに取り組む事項】
小学校区まちづくり協議会に関する庁内の連携については、まちづくり支援チーム間の情報交換・情報共有を行う「庁内連絡会議」のほか、まちづくり協議会への支援を通じて解決すべき地域課題が生じた場合に、支援チーム、市民活動支援課に加えて、地域課題の関係各課を招集し、連絡調整を行う「庁内検討会議」を必要に応じて開催し、庁内の横断的な連携を図っていく。
また、第5次総合計画の各事業を実施していく中で、現状の整理、課題の共有、今後の取組における連携の可能性等について検討する「職員意見交換会」を開催していくほか、必要に応じて「庁内プロジェクトチーム」を設置し、行政課題に効率的かつ横断的に対応していく。
- 【中長期的に取り組む事項】
地域における課題は、福祉、健康、子育て・防犯・防災、環境など多様な地域課題を抱えており、地域課題を解決するため、庁内情報システム等による情報共有の徹底、「職員意見交換会」、「庁内プロジェクトチーム」の積極的な活用など、これまで以上に庁内の横断的な連携、調整を図っていく。
- ③
- 【令和5年度までに取り組む事項】
既に設立された3つの小学校区まちづくり協議会については、地域課題の把握の為にアンケート等を実施して課題の抽出を行い、福祉、健康、子育て・防犯・防災、環境など多様な地域課題の解決に向けた「まちづくり計画」を作成しており、現在、この「まちづくり計画」を基にそれぞれ事業を実施していることから、事業を実施しながら先を見据えて、柔軟な発想を取り入れ、チャレンジする場にもなるよう周知、支援していく。
- 【中長期的に取り組む事項】
未設立の小学校区についても、これまでの3つの小学校区が取り組んできた一連のプロセスを参考にしながら、「小学校区まちづくり協議会」の設立に向け、地域住民の機運を醸成していく。
まちづくり協議会の取組の検討に当たっては、地域の多様な課題が解決できるよう、若い世代等からの柔軟な発想を取り入れながら「まちづくり計画」を作成していく。
なお、まちづくり協議会の設立により、既存の地域団体で活動する市民の負担増が懸念されることから、まちづくり協議会設立後の各団体のあり方についても検討していく。
- ④
- 【令和5年度までに取り組む事項】
地域に白井なし坊体操や各種体操を紹介していくとともに、住民主体で運営するサロンなど、地域の通いの場において、地域の人々が交流しながら、楽トレ体操や脳トレなどを実施することにより、健康の維持や認知症予防、介護予防の推進を図るほか、人とのかかわりの大切さについても併せて伝えていく。
また、既に設立している3つの小学校区まちづくり協議会では、福祉・健康に関する部会において、「まちづくり計画」に基づいて健康の維持等につながる取組を進めていく。
- 【中長期的に取り組む事項】
各地域において、白井なし坊体操や楽トレ体操などの各種体操が、地域で人とのかかわりをもちながら主体的に実践されるよう働きかけを行うとともに、住民主体で運営する通いの場の立上げや活動の継続を支援することにより、地域住民の交流を促していく。
また、健康維持、認知症予防には、福祉や健康部門だけでなく、スポーツ部門などの関係課が共通理解を持って情報を共有するとともに、各地域において、交流の機会が途切れないよう、取組を進めていく。